

# 感震ブレーカー等の性能評価ガイドラインについて

## ●背景

- 首都直下地震対策検討ワーキンググループ最終報告 (H25.12 中央防災会議首都直下地震対策検討WG)
  - ⇒ 火災による被害を最大で焼失棟数約43万棟、死者数約16千人と想定
  - ⇒ 電気関係の出火の防止及び初期消火成功率の向上が図られた場合、人的・物的被害は約9割、経済的被害は約5割の削減と試算
- 首都直下地震緊急対策推進基本計画 (H26.3 閣議決定)
  - ⇒ 電気に起因する火災の発生を抑制するための感震ブレーカー等の普及について、内閣府、消防庁、経済産業省等の関係省庁において検討を行うこと等が記載 など



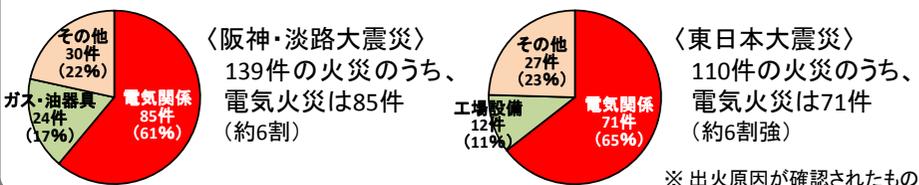
## ●感震ブレーカー等の普及に向けた取組

- 『大規模地震時の電気火災の発生抑制に関する検討会』の開催
  - 座長: 関澤 愛 (東京理科大学国際火災科学研究科 教授)
  - 事務局: 内閣府、消防庁、経済産業省
- 検討会の趣旨
  - ・「首都直下地震緊急対策推進基本計画」(平成26年3月閣議決定)等を受け、大規模地震時における電気を起因とする出火の発生抑制方策等について検討する。
  - ・特に、現在市販されている様々な種類の感震ブレーカー等について、性能評価の考え方や試験方法等について整理し、ガイドラインとしてとりまとめる。

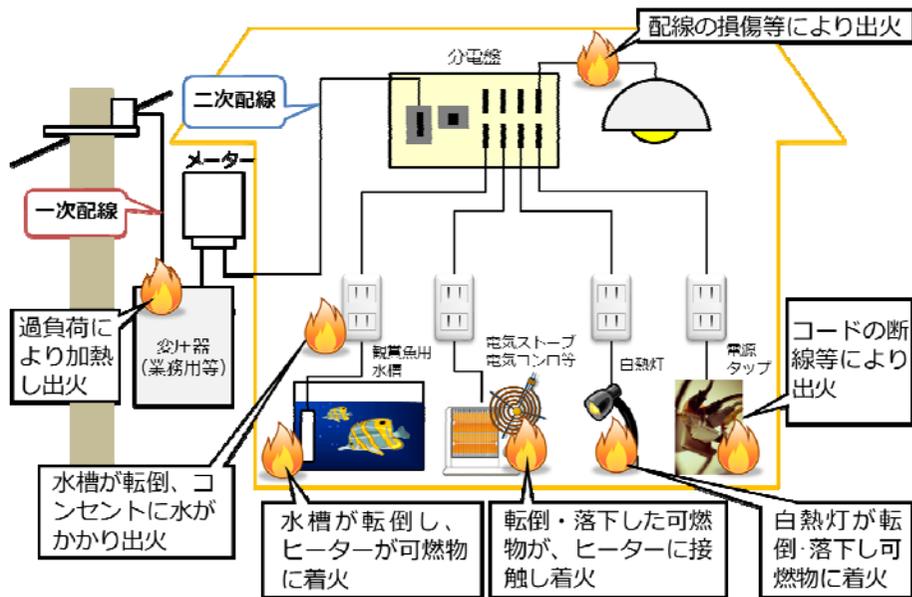
## ●感震ブレーカー等の性能評価ガイドラインについて

### ○大規模地震時における火災の発生状況

大規模地震時に発生した火災の過半数が電気に起因する火災\*



### ○電気に起因する出火の可能性のある主な部位



### ○感震ブレーカー等の種類(イメージ)

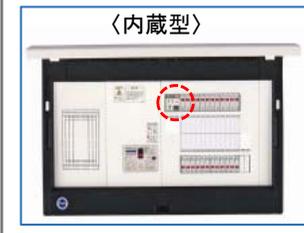
〈簡易タイプ〉  
重りの落下やバネの作動によりブレーカーを操作、電気を遮断



〈コンセントタイプ〉  
センサーが揺れを感知しコンセントの電気を遮断



〈分電盤タイプ〉  
センサーが揺れを感知し、ブレーカーを落として電気を遮断



### ○性能評価等

・性能評価の表示イメージ

性能項目	評価	説明	
出火予防性能【必須項目】	感震遮断	「★」～「★★★★」	「感震遮断」: 下記の振動試験による
	予防範囲	「★」～「★★★★」	「予防範囲」: コンセント単体～家屋全体を予防
避難安全等確保機能【選択項目】	照明確保	「可」又は「一」	「照明確保」: 避難時の照明を確保
	通電継続回線確保	「可」又は「一」	「通電継続回線確保」: 医療機器等の通電を確保

・感震遮断の性能評価試験方法

試験波形: 一定の加速度と周期を持つ正弦波  
 (標準試験: 作動(3波形)、不動作(4波形)による試験)  
 (簡易試験: 作動(1波形)、不動作(1波形)による試験)

### ○第三者認証制度の活用

(一社)日本配線システム工業会、(一財)日本消防設備安全センターにおいて推奨



### ○ガイドラインの活用

〈感震ブレーカー等のメーカー〉

- ・製品の性能評価、認証等にあたっての手引き
- ・今後の製品開発に向けた方向性の確認

〈消費者〉

- ・製品の信頼性の確認
- ・住宅の特性やニーズに即した製品の選択、留意点の確認

〈行政等〉

- ・第三者認証を得た製品の普及促進等